

武田 典久 議員

(一問一答方式)

- ① デマンド型交通事業
- ② 成年後見制度
- ③ 郷土愛を育む教育



デマンド型交通事業について

問 デマンド型交通の実施状況と今後の利用時の予約を簡単・確実にできるような改善はできないか。

答 デマンド型交通の実施状況としては、現在、南久米地区と豊茂地区で本格運行を行っており、7月からは新たに上須戒・五郎地区と久米地区で本格運行を行う予定です。また、柳沢新谷地区では、今年1月から実証運行を行っており、今坊地区と平野地区では、実証運行に向けて地元と協議を進めています。運行形態としては、いずれの地区も、週に2日、1日最大2往復とし、直近の交通結節点や病院、商業施設までの運行を基本とし、運賃は、実証運行では無料、本格運行では一般の方の利用で、地区外を300円、地区内を150円としています。

現在の予約方法は、簡易的に担当課が電話で事前受付、予約登録を行っていますが、今後、本市のDX推進計画においても交通システムの構築を検討しますので、利用者の利便性向上につながる予約システム等の研究を進める考えです。

成年後見制度について

問 制度利用者の増加が見込まれる中、後見人の受け皿の拡充が必要と考えるがいかがか。また成年後見サポートセンターで実施している広報活動とはどのようなものか。

答 本市では、弁護士や司法書士等の専門職の方が後見人になっていることが多く、法人後見を行っているところはありません。市としても、法人後見は利用者を支える重要な受け皿と認識しており、社会福祉協議会と協力しながら法人後見を実施する法人の確保に加え、将来的には、一般市民が後見人になる市民後見についても検討を進める考えです。

また、令和4年4月1日に大洲市総合福祉セン

ター内に開設をした成年後見サポートセンターでは、センターの役割や成年後見制度の広報、啓発を順次行うこととし、広報おおずやホームページ、社協だよりに掲載したほか、今後はリーフレットの閲覧やポスターの掲示、研修会や市民講座などの開催も計画しています。一人でも多くこの制度を必要としている方の利用につながるよう引き続き周知・啓発に努めたいと考えています。

郷土愛を育む教育について

問 郷土愛を育む教育において大変意義のある古学堂の改修に支援をお願いしたいがいかがか。

答 古学堂は、江戸時代前期に開設された私塾で、後に広く庶民向けの教育施設となった建造物です。学び舎である学室と図書館の2階建ての文庫で構成されており、うち約270年前に建築された文庫は市の指定史跡となっています。

このように長い歴史を持つ古学堂ですが、平成30年7月の豪雨によって建物は床上まで浸水し、貴重な史料や道具類も大きな被害を受けました。

建物の復旧に当たり、指定史跡の文庫の改修では、大洲市文化財保護事業補助金交付要綱に基づき補助金を交付する予定



古学堂

です。一方、学室は指定史跡ではないため補助対象外ですが、大洲市歴史的風致維持向上計画（第2期）における主要事業の一つとして「歴史的風致形成建造物保存対策事業」を掲げており、歴史的風致形成建造物に指定した建造物に対して、地域の歴史的風致を維持するために必要な修繕、修復費等に係る財政支援を検討することとしています。

これにより所有者の財政的負担を軽減するとともに、歴史的町並みの保存、さらには修理後の一般公開や活用によって、郷土の歴史、文化に対する市民の意識高揚が期待されると考えています。